

寺本義也監修「トップ・マネジメントのための経営品質講座」を読む

- 意思決定への新しい視座を考える -

経営品質という概念は、最終生産物としての個々の製品やサービスの品質の向上という視点を超えて、それらを生み出す組織的な全体プロセスに焦点を当てることを意味している。しかも、それは、単に組織的なプロセスの質的な向上に注目するだけでなく、それを継続的、持続的に向上させる取り組みである。その意味で、経営品質向上にはあらかじめ決められたゴールは存在しない。持続的な向上という明確な意志と徹底した実践こそが経営品質の核心である。

こうした挑戦的な課題に取り組み、それを成功させるためには、組織メンバー全員が主体的に参画することが必要となる。しかし、そのためにはトップ・マネジメントの強力な支持とコミットメントが不可欠である。なぜならば、経営品質は組織の質を問題とするものである以上、最終的には経営者の質の向上が問われることにあるからです。

「まえがき」より

寺本義也監修

「トップ・マネジメントのための経営品質講座」生産性出版 2006年7月20日刊

- 2006年8月29日記 -